

令和元年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

P T A名	静岡県立浜松特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立浜松特別支援学校 P T A <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	318人

1. 使用状況

寄贈物品名	コンビネーション遊具
使用学年及び人数	小学部99人、中学部69人
使用頻度	体育科、生活単元学習、自立活動の授業や昼休みなどで毎日使用
使用状況	<p>第2学年の生活単元学習「わくわくランドでにっこにこ」の学習では、いろいろな上り口(ジャングルジム、階段、ボルダリング、縄など)や遊具の上のぐらぐら道にも挑戦して手や足、体全体を使って遊ぶことができた。第6学年の自立活動では、動作の基本的技能に関する身体の動きを目的に、遊具を活用し様々な動きを経験する活動を取り入れている。</p> <p>昼休みには、小学部、中学部の児童生徒がいろいろな場所から遊具に上ったり下りたりして繰り返し遊ぶなど、友達と場所を共有して過ごしている。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>生活単元学習の授業では、遊具の上ですれ違う時や、滑り台の順番待ちなど、友達の様子を見たり簡単な会話をしたりしながら遊ぶ姿が見られた。よじ登ることや不安定な場所を歩くことが苦手な児童もいるが、遊具2年目の使用により繰り返し経験することで体の使い方を覚え、自分からボルダリングやジャングルジムを上ることができる児童が増えた。</p> <p>多くの学年が一緒に遊ぶ昼休みでは、順番を守って滑り台を利用したり、高学年が場所を譲ったりする姿も見られ、社会性を育む場面がより多く見られるようになった。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>遊具使用の2年目は、体育科、生活単元学習等で、体を動かすことの楽しさや体力向上を段階的に行うよう遊具を活用してきた。今後は、ジャングルジムの上までバランスをとりながら登ることが難しい児童にも遊具を積極的に活用し、教師が手足を補助しながら、少しでも高く上る経験をして高い所まで登ることができた達成感を味わえる時間の設定をしていきたい。</p>
その他希望や所感など	<p>1年目に子どもたちで遊具の名前を「わくわくランド」に決め、その名称は全校児童生徒に浸透した。特に小学部の児童は、朝から遊具で遊ぶことを楽しみに登校してくる児童が多く、学校生活が活気づいている。今後も一人でも多くの児童生徒が有効活用できるよう大切に使用していきたい。</p>

2. 活用の様子



児童に人気のボルダリング。
手足を上手に操作して何回も
登っています。

昼休みには、友達と誘い合っ
てジャングルジムの高い所まで
登って遊ぶ姿が多く見られます。



登ることが苦手な児童も、繰り返しチャ
レンジすることで、自信を持って遊具の
上まで登ることができるようになりました。